

6年前の寛仁親王牌の決勝は3連単で20万円超え 夢が見られるバンクです、この弥彦競輪場は



東京五輪に出場した新田祐大、脇本雄太が決勝に乗った、8月15日のオールスターの決勝。打鐘から脇本が逃げて、4番手から新田が北の3人を連れてまくっていきました。優勝は脇本の番手を回った古性優作で、3連単は5、280円。

あれっ、このレースって、2015年にあった、弥彦での寛仁親王牌の決勝に似てない？脇本が赤板から出て、踏んでいったのは打鐘から。その手があったのかと、武田豊樹が番手で粘り、6番手から新田がまくっていく展開。しかも北はオールスターと同じ4人のライン。武田にさばかれて4番手に下げさせられた金子貴志が、新田に合わせてまくり上げ、それに乗った園田匠が強襲して1着。脇本を抜いた武田が2着で、続いた神山雄一郎が3着。3連単はアツと驚く21万2、050円のビッグ配当。

これが弥彦の4000バンク！

伊集院静の小説『いねむり先生』のモデルとなった、傑作『麻雀放浪記』を書いた作家の阿佐田哲也をして、「日本一美しい」といわしめた弥彦競輪場。

ところが、このバンクでのレースは、弥彦山の麓、隣接する彌彦神社の雰囲気とは真逆。1周は400m。直線が63・1mと長いこともあって、後方からの強襲が決まるので、実にやっかい。「荒れる弥彦」、「ミラクルバンク」といわれて、穴党に絶大の人気があります。寛仁親王牌でいえば、その日、11レースまで外れていても、一発逆転が可能。6年前がそうだったんだから。

▽弥彦競輪 寛仁親王牌

世界選手権記念トーナメント
思いつくまま回顧録 第1話

【新潟スポーツ 信氏 忠】

